

令和4年度全国学力・学習状況調査結果について

1 実施日 令和4年4月19日（火）

2 調査対象 第3学年生徒53名

3 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力
上記①と②を一体的に問う。

(2) 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

4 調査結果

(1) 教科に関する調査

国語は、全国平均正答率を下回っていました。
数学は、全国平均正答率を下回っていました。
理科は、全国平均正答率を下回っていました。

(2) 生徒質問紙調査

成果が見られた項目

- 学校の授業以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）
- 数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
- 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てていますか。
- 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

課題が見られた項目

- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。
- 学級の生徒との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか。
- 学習の内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。

5 学力向上の取り組み

今回の調査結果では自分の意見を書いたり、考えや根拠を明らかにして説明するなどの問題について、課題が見られました。そこで本校では今後、次の点について重点的に取り組んでいきます。

- ・ 「わかった・できた」が実感できるような授業づくりを目指して、ICTの活用や指導法の工夫改善に取り組むとともに、既習事項を振り返る機会を設け、基礎・基本のより一層の定着を図る。
- ・ 授業の中で、自分の考えを持つ場面を設定し、なぜそう考えたのか、その考えに至った根拠や理由を明確にする時間を確保する。
- ・ 生徒が互いの考えを説明し合う機会を設け、他者の意見を聞き、自分の意見と比較、検討する活動を行うことで生徒が相互に啓発し合うような授業づくりに努める。
- ・ 「わかった・できた」が実感できるような授業づくりを目指して、ICTの活用や指導法の工夫改善に取り組むとともに、既習事項を振り返る機会を設け、基礎・基本のより一層の定着を図る。

6 保護者・地域の皆様へ

生徒の学習環境・生活環境づくりについて、次の点で家庭や地域の方々のご協力をお願いいたします。

○ 家庭学習について

- ・ ゲームやテレビ、スマートフォンなどの利用についてルールを決めるとともに、生徒が落ち着いて学習できる場と時間を確保してください。
- ・ 計画的な家庭学習、宿題や授業の復習を行うことを習慣づけさせてください。

○ 家庭での生活について

- ・ ゲームやテレビ、スマホなどの時間を少なくし、家族のふれあいや会話の時間を大切にしてください。
- ・ 将来の夢や希望が持てるように、和やかな家庭の雰囲気を作り、会話の時間を大切にしてください。

○ 読書の時間の確保について

- ・ 生徒の成長に影響を与える本や興味関心のある本の読書の機会を大切にしてください。